

高梁の 近代化遺産 ⑭

伯備線方谷駅（中井町西方）

鉄道の駅名には駅を置く地名を充てますが、地域を代表する施設名などに由来した例もあります。伯備線木野山駅、山陽線金光



「小型停車場本屋標準図」の「第1号型」に近い方谷駅本屋。窓枠と窓の配置が開業時の姿とは異なりますが、漆喰と下見板張りの外観、石を縦羽目に張り込んだ腰部分はオリジナルだと思われま

駅、津山線法界院駅、誕生寺駅、吉備線吉備津駅や姫新線岩山駅などは寺社名に拠った例。井原鉄道吉備真備駅と早雲の里荏原駅、智頭急行線宮本武蔵駅は歴史上の人物を駅名とした例です。伯備線方谷駅は、駅予定地付近に山田方谷の長瀬塾があったことから命名されたとする説が有力で、人名駅の嚆矢だといわれています。

伯備南線第6工区木野山・方谷間延長9・12キロメートルは大正14年11月1日に工事着手。西本健次郎が請け負い、昭和3年3月7日に竣工しました。当初請負金額は69万9800円。竣工金額は83万5000円でした。工事区間にはふたつの隧道と橋梁4箇所があり、地質の脆弱な箇所や隧道予定地の地質が硬かったため工事の遅れが懸念されました。しかしながら、期限の46日前に無事開通しました。

『伯備線建設概要』によると、方谷駅には本屋35・6坪、物置及び燈室3・75坪、向乗降場待合所6・6坪、貨物上家12坪、信号機上家1・1坪、簡易浴場1・5坪が置かれました。また、便所1棟、転轍小屋2箇所も設けられ、工事費は1万644円5銭でした。

鉄道省は大正末期から建物の規模・設備の標準化を本格化させました。そして、昭和4年に建物施工の基本を示す「建物標準示方書」を、昭和5年には達第875号「小停車場本屋標準図」を通過しました。方谷駅は、伯備線が全線開業した昭和3年10月25日に開



切妻屋根の入口の柱と破風部分には独特の装飾が見られます。方谷駅のプラットホームは本屋よりも高い位置にあり、駅前後の線路は花崗岩を積み上げた擁壁の上にあります。鉄道用地の確保と難工事の跡を窺い知ることができます。

業。「小停車場本屋標準図」が通達される前の完成ですが、同図「第1号型」の寸法、配置とほぼ一致します。

駅務室の井倉方には「第1号型」にはない張り出し部分がありますが、この部分は後年の増築によるものだと思われます。方谷駅と同じ年に開業し登録有形文化財となった因美線美作滝尾駅本家は、「第3号型」とほぼ一致します。おそらく、当時すでに標準図はほぼ大成されていたものだと考えられます。

方谷駅は、美袋駅と並び伯備線開業当時の佇まいを残す貴重な鉄道遺産です。駅名にも歴史的な背景があります。高梁川の流れに耳を傾け、等高線に沿って山壁を縫うように走る列車の響きに耳を澄ませ、木造駅舎の持つあたたかさに触れてみるのも悪くありません。

（文・吉備国際大学社会学部ビジネスコミュニケーション学学科准教授・小西伸彦さん）

編集と発行（毎月15日発行）高梁市総務部企画課

〒716-8501 岡山県高梁市松原通2043 電話0866(21)0210 ホームページアドレス <http://www.city.takahashi.okayama.jp/>



環境にやさしい大豆油インキを使用しています。

本紙は環境保全のため再生紙を使用しています。